

実施中期計画の変更について

- 2020年に、再処理工場・MOX加工工場が事業変更許可を取得。現在、設計および工事の計画の認可審査中。
- 最新の日本原燃による六ヶ所再処理工場及びMOX加工工場の暫定の操業計画、電気事業者によるプルトニウム利用計画を踏まえて、使用済燃料再処理機構が、具体的な再処理量等について記載した実施中期計画を変更。

考え方

「我が国におけるプルトニウム利用の基本的な考え方」（原子力委員会決定）の趣旨を踏まえ、計画の策定を行うこと。

回収されたプルトニウムが、MOX燃料として装荷されるタイミングで時宜を失わずに消費されること。

（再処理で回収したプルトニウムが、MOX燃料として発電所で装荷されるまでの期間は、設計・加工や輸送に係る期間を踏まえて約4年と想定。）

		当面の計画		
		2022年度	2023年度	2024年度
暫定操業計画 (日本原燃)	再処理量 (tU)	0	70	170
	回収Pu量 (tPu)	0	0.6	1.4
プルトニウム 利用計画 (電事連)	Pu消費量 (tPu)	0.7 (1基)	0.7 (1基)	0.7 (1基)
	プルサーマル実施	高浜3, 4 / 伊方3 / 玄海3		

(参考) 2025年度以降の見込み	
2025年度	2026年度
140	240
1.1	2.0
1.0	2.1

※「六ヶ所再処理施設およびMOX燃料加工施設 操業計画」（2022年2月10日,日本原燃）、「プルトニウム利用計画」（2022年2月18日,電気事業者連合会）より引用。

実施中期計画	再処理量 (tU)	0	70	170
	Pu回収量 (tPu)	0	0.6	1.4
	MOX加工量 (tPu)	0	0	0

140	240
1.1	2.0
0.6	1.4

※四捨五入により合わない場合がある。

※2022年度末の日本のプルトニウム保有量は、45.2tPuとなる見込み